

## 【研究課題】

### 「肝細胞癌に対する薬物療法の予後予測：EOB-MRI による不均一性評価の有用性」

研究代表者：奈良県立医科大学附属病院 放射線診断・IVR 学講座 南口貴世介  
研究責任者：兵庫県立がんセンター 放射線診断・IVR 科 前田弘彰

## 【研究目的】

肝細胞癌に対する全身薬物療法の予後不良因子として、肝特異性 MRI 造影剤であるガドキシト酸ナトリウム(EOB)を用いた造影 MRI(EOB-MRI)の画像所見の有用性について検討します。さらに、EOB-MRI による予後予測を利用して、肝細胞癌の患者個々に応じた最適な全身薬物療法の選択に寄与することを目的としています。

## 【研究意義】

現在、進行肝細胞癌に対する全身薬物療法として6種類の薬剤が使用可能となっています。アテゾリズマブとベバシズマブの併用療法(2020年9月に保険承認)は薬物療法の first line として位置づけられています。β カテニン変異肝細胞癌では治療効果が乏しいことが知られており、患者個々に応じた適切な薬剤選択が模索されています。

肝特異性 MRI 造影剤であるガドキシト酸ナトリウム(Gd-EOB-DTPA,以下 EOB)を用いた造影 MRI(EOB-MRI)では、腫瘍血流のみならず、EOB を輸送するトランスポーターを視覚化することが可能です。トランスポーターの発現は腫瘍の悪性度や分子異常と関係しており、近年 EOB-MRI は予後予測に有用なイメージングバイオマーカーとして着目されています。

今回我々は、肝細胞癌に対する全身薬物療法(アテゾリズマブ+ベバシズマブ、およびレンバチニブ)の予後不良因子として、EOB-MRI の肝細胞相の有用性について検討します。さらに EOB-MRI の肝細胞相による予後予測を利用して、肝細胞癌に対する薬物選択の新たな治療戦略を確立します。

## 【研究対象】

研究対象となる患者様は、2018年3月～2022年12月の間に当院および共同研究機関で、肝細胞癌に対して全身薬物療法(アテゾリズマブ+ベバシズマブ、およびレンバチニブ)を導入された方で、薬物療法導入前に EOB-MRI を撮像された方を対象としています。対象はアテゾリズマブ+ベバシズマブ投与例 60 例程度、およびレンバチニブ投与例 60 例程度です。

## 【研究方法】

2018年3月～2022年1月の間に当センターおよび共同研究機関で、肝細胞癌に対して全